

農業・農村現場の現状と農業政策への意見

～広野牧場の取組みから見えてきたこと～

有限会社広野牧場
代表取締役 広野正則

「強い酪農・持続可能な酪農を目指して」

- 1、 地域に認められる酪農経営
 - ・「酪農教育ファーム認証牧場」として体験者の受入
 - ・循環型農業として良質堆肥の供給
 - ・法人化し雇用経営による継続可能な経営
 - ・飼料は食品残渣を利用したエコフィードを開発し利用している。
去年からは飼料米生産者から供給された生モミを時期により粉砕し混合している。
- 2、 効率的な経営
 - ・育成は行わず、北海道より初妊牛を導入
 - ・飼料は全量購入
 - ・仔牛はすべて F1 生産で、60 日齢で市場出荷

→生産原価を把握することでやるべきことが見えてくる。
- 3、 多角化によるリスク分散
 - ・和牛繁殖部門
 - ・6次産業化部門
森のジェラテリア MUCCA (むっか) ジェラートショップ
森の石窯パン屋さん leche (れーちえ) パン屋さん

※6次産業化はハードルが高い
- 4、 人材育成
 - ・インターンシップの受け入れを積極的に行っている。
→体験者で就職を希望した人を雇用しているため、ミスマッチが少ない。
 - ・従業員が多くの人とふれ合うことで刺激になる
 - ・酪農の魅力を常に発信していくことで従業員のモチベーションが上がる。
- 5、 農業は既得権が強く、新規就農者にとっては大きな壁になっている。
規模拡大だけが経営の効率化ではない。酪農で自分の強みを発揮するためには、販路の多角化が必要。
地域の産業と連携することで多くの可能性が見えてくる。
大小さまざまな経営体が地域の特徴を生かした努力をすることで、地域とともに発展できるようにすることが大切だと考える。
- 6、 情報の共有化
経営をできるだけオープンにしている。